

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：令和元年12月～令和7年3月（5年4月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は、平成 20 年 7 月に国から「松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、その後、平成 25 年 3 月に「2 期松江市中心市街地活性化基本計画」、令和元年 12 月に「3 期松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受けた。

3 期計画においては、“既存ストックの活用などによる活気の創出”、“水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり”、“歴史・文化資源を生かした観光振興・交流の拡大”の 3 つの基本方針のもと、官民が連携して事業を展開し、中心市街地活性化に取り組んだ。

計画期間中は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、賑わい創出の機会が失われた期間があったが、令和 5 年度には感染症法上の位置づけが 5 類になったことで、徐々にイベントの開催や観光需要の回復を受け、コロナ禍以前の賑わいが戻ってきた。

また、3 期計画において、松江市の中心市街地活性化を目的に、令和 4 年 10 月に設立した民間まちづくり会社「株式会社まつくる」が令和 5 年 11 月に都市再生特別措置法第 118 条に基づき、地域のまちづくりを担う法人として市町村が指定する都市再生推進法人となり、中心市街地活性化に繋がる様々な事業を展開している。

計画期間中においては、遊休不動産の活用策として実施した「チャレンジショップ支援事業補助金」による新規出店がコンスタントに増加しており、令和 6 年度は 22 件と、計画期間中の最高件数となったことに加え、中心市街地の歩行者自転車通行量も目標値を超える結果となった。また、松江が誇る水辺空間の利活用について、イベントなどの開催を積極的に実施することで、「水辺の公共空間の活用日数」が目標値を達成するなど、「水の都松江」における魅力的な水辺空間の創造に繋がった。このような取り組みを通じて計画期間中の中心市街地の賑わいに大きく寄与したと考えている。

一方で、中心市街地の宿泊客数、外国人宿泊客数が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けたことから、目標値の達成には至らなかったが、コロナ禍後は順調に回復してきている。計画期間中には観光庁の「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」を活用し宿泊施設・観光施設の高付加価値化改修に 17 施設が取り組んだ。この取り組みをはじめ、各種観光事業を実施することで観光地としての魅力向上を図るとともに、松江水郷祭や水燈路など、夜の賑わい創出を図るイベントコンテンツの強化を行ってきたことで、コロナ禍後の大幅な観光客の回復に繋がり、中心市街地の活性化に寄与したものと考えている。

3 期計画期間中は新型コロナウイルス感染症の拡大といった未曾有の状況の中、様々な取り組みを実施し、中心市街地活性化に取り組んできた。このことから、官民一体となって活性化に取り組む機運醸成ができたと考える。令和 7 年度以降も、活性化に繋がる事業を官民で連携して実施することで、中心市街地の活性化を目指していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

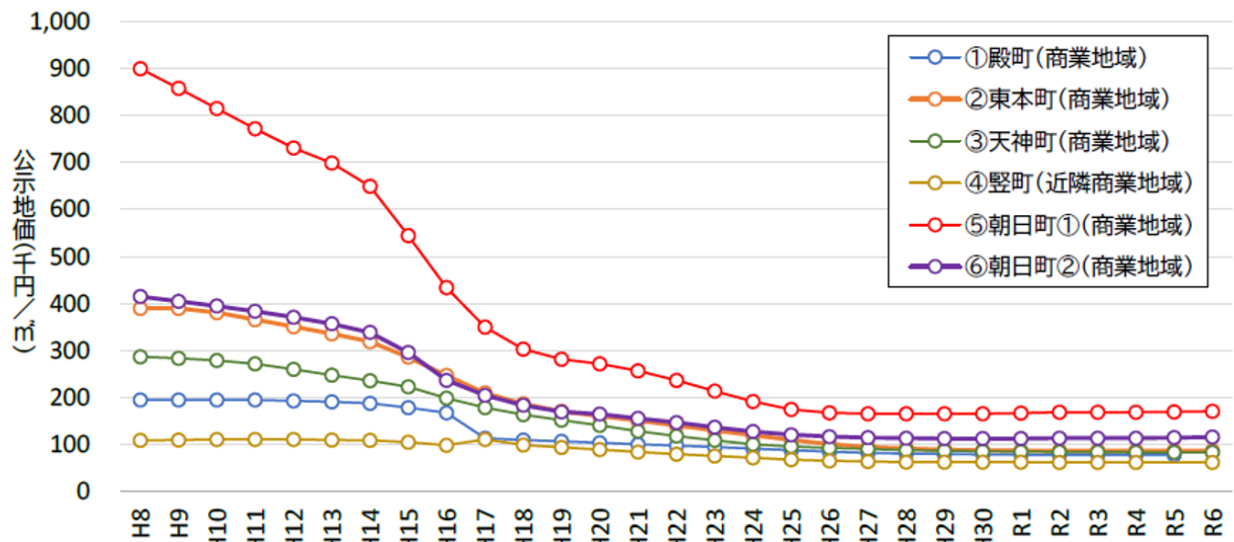
(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成30年 度(計画前 年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
人口	7,548 人	7,411 人	7,253 人	7,161 人	7,144 人	7,186 人	7,182 人
人口増減数	-100 人	-137 人	-159 人	-92 人	-16 人	42 人	-4 人
自然増減数	-83 人	-89 人	-69 人	-98 人	-93 人	-107 人	-131 人
社会増減数	-17 人	-49 人	-89 人	6 人	76 人	150 人	127 人
転入者数	291 人	297 人	241 人	277 人	324 人	323 人	358 人

(2) 地価

中心市街地の商業地の地価の推移



資料：国土交通省地価公示

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

全 78 事業を推進し、このうち 21 事業が完了、57 事業が実施中となっていることから、全体としては概ね順調に進捗・完了したと考えられる。

市街地整備においては「旧日銀松江匠工房(カラコロ工房)整備事業」により、旧日銀の施設外観を残したまま補修することで国の登録有形文化財としての価値を継承しつつ、地元産品販売やフードホール、ものづくり体験等の新たな活用を図ることで、新たな観光拠点として賑わい創出に寄与している。

さらに、「チャレンジショップ支援事業」など、新規出店や店舗リノベーション支援を実施したことで、中心市街地の経済効果に大きく寄与している。(遊休不動産の事業化件数 30 件《H26～H30》⇒81 件《R1.12～R7.3》)

また、水辺を活用した事業としては、松江ミズベリング協議会を中心にイベントの実施など利活用を進めたことで、利用日数は大幅に増加した(水辺の公共空間の活用日数 548 日《H26～H30》⇒1,734 日《R1.12～R7.3》)。これにより松江の特色である水辺を活用した賑わい創出が図られた。

中心市街地の夜のイベントとして、令和 7 年秋の NHK 朝の連続テレビ小説「ばけばけ」の題材である小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が愛した「怪談」をテーマとした「松江怪喜宴」、西日本有数の湖上花火大会「水郷祭」などを実施したことで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け大幅に減少した宿泊客数の回復につなげてきた。(外国人宿泊客数 43 千人《H30》⇒42 千人《R7》、宿泊客数 1,269 千人《H30》⇒1,206 千人《R7》)

このような状況の中、中心市街地の低未利用地(南殿町・母衣エリア)は平成 29 年度には 4.1ha であったが、令和 6 年度には 4.2ha と横ばいで推移しており、低未利用地の増加に歯止めをかけることができた。また、地価公示価格(松江駅周辺エリア)についても令和元年には 167 千円であったが、令和 6 年度には 171 千円と回復している。

上記の状況を踏まえ、3 期計画の取り組みが経済活力の向上に寄与していることから、中心市街地の活性化状況については、「活性化した」と考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取り組み等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

令和 6 年度は、遊休不動産の利活用が進み新規出店が増加したことから中心市街地の歩行者自転車通行量が増加した事、また、社会実験を重ねられた結果の「河川空間のオープン化」で民間の自発的な利活用が促進され来場者の回遊性が高まった事も中心市街地の活性に大きく寄与したと考える。

また、都市再生推進法人「株式会社まつくる」が持続的にまちづくりのコーディネート及び活動の推進主体者としての役割を担い、賑わいや交流創出の施設整備や管理運営、都市開発事業の実施やその支援、情報提供などを主な業務として、活性化に繋がる様々な事業を展開された事も大きく寄与している。重ねて「職人商店街整備」・「水辺の利活用」を後押しする事業実施、空き店舗のゲストハウス・飲食店等への改装事業を推進され交流人口増や消費拡大を継続して促進されている事からも今後もエリア内外の事業者を含めた行政機関との一層の連携が必要である。併せて、「チャレンジショップ支援事業補助金」を活用された出店事業者のフォローは必須であると同時に、若手起業家の出店や商店街イベントへの学生の参画、経営者の経営革新(SNS 活用・キャッシュレス決済等)などの取り組みによる観光地の再生・観光サービスの高付加価値化による魅力向上も推進しなければならないと考える。

本協議会としては、官・民・学が一層連携し、一体的に各種事業を協働で進めていくことが重要であると考えます。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ① 活性化した
- ② 若干活性化した
- ③ 計画策定時と変化なし
- ④ 計画策定時より悪化

松江市まちづくりのための市民アンケート（令和5年度）

実施時期 令和5年6月22日～7月5日

対象者 無作為抽出した18歳以上の松江市民2,980人

市内高等学校に通う高校3年生のうち18歳以上の生徒110人

回収数及び回収率 1,103件/3,000件 36.8%

松江市まちづくりのための市民アンケート（令和元年度）

実施時期 令和元年6月10日～6月24日

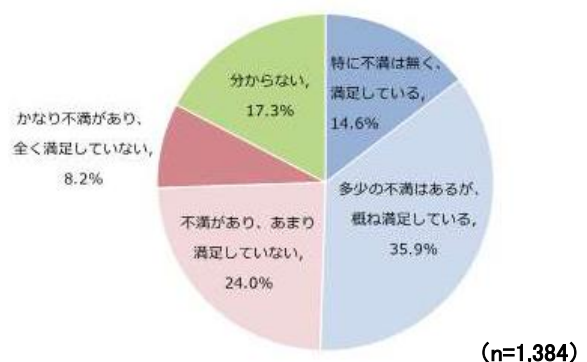
対象者 無作為抽出した18歳以上の松江市民3,200人

回収数及び回収率 1,432件/3,200件 44.8%

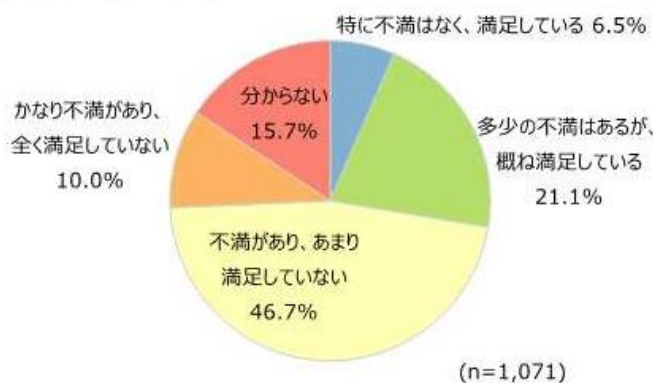
中心市街地が魅力的かの状況（R5年）



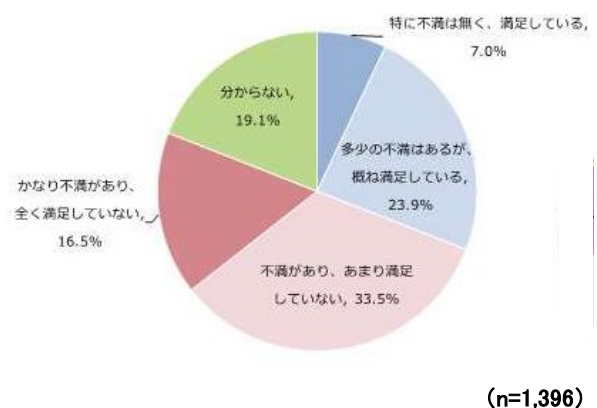
中心市街地のにぎわいの状況（R元年）



商店街の状況（R5年）



商店街の状況（R元年）



（1）中心市街地のにぎわいの状況について、市民アンケートにおいて中心市街地に対しての市民の所感をより具体的に捉えるため、「中心市街地が魅力的か」という設問に変更した（令和5年度）。単純な数値の比較はできないが、令和元年度は、約半数がにぎわいに「満足して

いる」と回答した一方、約 6 割が魅力的とまでは感じていない状況である。

(2) 商店街の状況について、「かなり不満があり、全く満足していない」という回答が前回調査時(令和5年度)より 6.5 ポイント改善していることに加え、「分からない」という回答も 3.4 ポイント減少した。

これらの項目について、改善された部分があるものの、まだ満足や魅力的と感じる割合は半分にも満たないため、今後も継続して中心市街地の活性化に取り組む必要がある。

6. 今後の取り組み

3 期基本計画では計画に掲げた事業の実施により、目標指標の達成状況からの総合的な判断から一定の活性化が図られたと考える。また、市民アンケートの結果からも活性化状況について肯定的な意見が増加しているため、若干の活性化が図られた。

今後は、今計画で得られた成果を活かしながら、松江市が現状抱える課題の解決に向けて引き続き官民一体となって中心市街地の活性化に向けて取り組みを進めていく。

具体的には、空き家・空き土地・空き店舗等の既存ストックを活用したまちづくりを進めるエリア・リノベーション事業、宍道湖や大橋川など多様な水辺に恵まれる「水の都」松江の水辺空間を活かしたまちづくりを進める白潟地区都市再生整備計画事業や大橋川周辺まちづくり検討事業、観光振興に向けてインバウンドを推進するために、山陰まんなかインバウンド推進プロジェクトなどの事業を実施していく。

計画の取り組みによる賑わい創出の効果を中心市街地全体に波及させることが重要なため、今後も各種事業を継続することで中心市街地の活性化に取り組んでいく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
既存ストックの活用などによる活気の創出	遊休不動産の事業化件数	30 件 (H26～30 年度累計)	53 件 (R 元年12 月～7 年 3 月累計)	48.4 件	81 件	R7.3	A
	(※補完指標)歩行者・自転車通行量(平日・休日)	20,060 人 (H30 年度)	23,066 人 (R6 年度)	22,464 人	25,375 人	R7.3	A
水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり	水 辺 の 公 共 空間 の 活 用 日 数	548 日 (H26～30 年度累計)	948 日 (R 元年12 月～7 年 3 月累計)	868 日	1,734 日	R7.3	A
	(※補完指標)水 辺 の 公 共 空間 の 来 訪 者 数	431 千人 (H30 年度)	497 千人 (R6 年度)	483 千人	689 千人	R7.3	A
歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大	中心市街地内の外国人宿泊客数	43 千人 (H30 年)	65 千人 (R6 年)	60 千人	42 千人	R7.1	C
	中心市街地内の宿泊客数	1,269 千人 (H30 年)	1,374 千人 (R6 年)	1,353 千人	1,206 千人	R7.1	C

< 達成状況の分類 >

A : 目標達成、B1 : 概ね目標達成 (基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている)、B2 : 基準値より改善 (基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない)、C : 基準値に及ばない

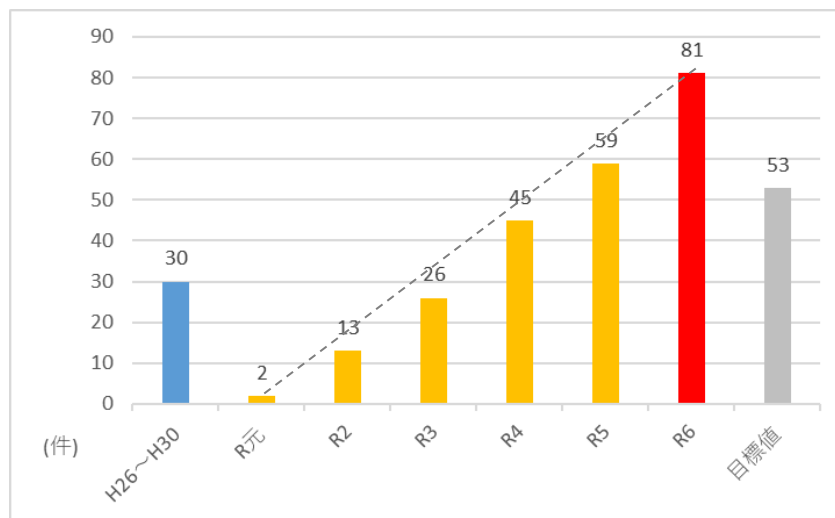
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。(例: a、b1、b2、c)

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「遊休不動産の事業化件数」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P57～P59 参照

●調査結果と分析



年	(件)
H30	30 (基準年値) (H26～30 累計)
R 元	2 (年間 2)
R2	13 (年間 11)
R3	26 (年間 13)
R4	45 (年間 19)
R5	59 (年間 14)
R6	81 (年間 22)
目標値	53 (累計)

※調査方法：主要事業における事業化件数

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地の遊休不動産

〈分析内容〉

遊休不動産の事業化件数に向けた各事業については、概ね予定通り完了した。

後述するチャレンジショップ支援事業において、毎年コンスタントに多くの新規出店があり、中心市街地内の賑わい創出に寄与したと考える。

最新値では、計画期間中最多の22件となっており、目標値(累計)を大幅に上回った。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金(内閣府)(令和元年度～3年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】15件(累計) 【最新値】0件
達成した(出来なかった)理由	リノベーションスクールなど遊休不動産を題材とした事業化提案を求める取り組みから普及啓発へ主たる取り組みを移行したため事業化件数は上がっていないが、チャレンジショップ支援事業等、他の遊休不動産の事業化の取り組みを後押ししているものとする。
計画終了後の状況及び事業効果	遊休不動産の所有者に対して、当事業の情報提供・空き家空き店舗の利活用意向調査を行い、新たな遊休不動産の掘り起こしを行って

	いる。 また、リノベーションまちづくりガイドラインを活用した普及啓発に取り組むとともに、SNS や動画を活用した情報発信を行っている。
事業の今後について	地方創生推進交付金事業としては令和３年度で完了したが、令和４年度以降も引き続き「水の都松江のまちの Re-project」を実施している。遊休不動産の所有者に対して当事業の情報提供・空き家空き店舗の利活用意向調査を行うことで、新たな遊休不動産の掘り起こしを行い、事業化促進を図る。また、今後もガイドライン、プロモーション動画や SNS を活用した事業の普及啓発を継続して行う。

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年 6 月にオープン。民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】6 件（累計） 【最新値】3 件（累計） 計画期間中の中心市街地内への新規出店は 3 件に留まった。
達成した（出来なかった）理由	目標値達成には至らなかったが、チャレンジカフェ、シェアオフィスの利用者が中心市街地外も含めて新たに起業した案件が 6 件あったことから事業の効果はあったものと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	利用者が入れ替わりながらも利用者・契約件数は横ばいで推移している。新たな利用者にもチャレンジショップ支援事業等の情報が届くよう今後も定期的な情報交換を行っていく。
事業の今後について	HP、インスタグラム、フェイスブックを主とした情報発信や、施設活用者の口コミにより周知されてきている。特にチャレンジカフェについては コンスタントに利用があり、週に 3, 4 回利用されている。 今後もチャレンジショップ支援事業と連携して、起業及び空き家・空き店舗を活用した中心市街地への出店へつなげていくことが期待できる。

③. チャレンジショップ支援事業（島根県、松江市）

事業実施期間	平成 9 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】22 件（R6 実績） 新規出店がコンスタントに増加しており、令和 6 年度は 22 件と、計画期間中の最高件数となった。
達成した（出来なかった）理由	令和 6 年度は目標値を大きく上回ることができた。 中心市街地への新規出店者が増えることで街の賑わいが生まれ、新

	規出店を検討する方に波及したのではないと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	計画期間中に事業実施に至った 81 件のうち、46 件が飲食業で最多となった。その他には小売業、サービス業、宿泊業などの出店があったことから、中心市街地の賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	計画期間においてはコロナ禍にかかる期間があったものの、事業化件数が毎年コンスタントに伸び続け、目標値を大きく上回ることができた。 また、令和 6 年度に最多件数となった以降も事業者の相談件数は依然として多いことから、今後の事業化に向けて期待できる状況となっている。 引き続き本事業を継続することで、中心市街地への新規出店に結び付け、遊休不動産事業化に向けて取り組んでいく。

④. 伊勢宮界限元気プロジェクト（松江新大橋商店街振興組合、株式会社伊勢宮界限元気プロジェクト）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	商店街やまちづくり会社による空き店舗への出店誘致や地域資源を活かしたソフト事業等の実施により、魅力的なまちづくりを推進し、誘客の促進と地域コミュニティの再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－ 平成 24 年度にテナントミックス事業として整備した 6 件のテナントは令和 3 年度から引き続き空きテナントなく推移している。近年ではドローンを活用した PR 動画などを制作しており、幅広い活動を展開している。
達成した（出来なかった）理由	テナントはすべて埋まっており、常時中心市街地の賑わいに寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	テナント 6 件の内訳では、飲食 4 件、衣類販売 1 件、レンタルオフィス 1 件となっており、人気店舗が集まっていることからエリアへの集客の下支えとなっている。
事業の今後について	今後は、空き店舗問い合わせ窓口と周辺商店街、チャレンジショップ支援事業との連携を図り、ドローンの有効活用も加え更なる事業化を図る。また、コロナ以前に実施していたイベント等の復活も検討していく。

●今後の対策

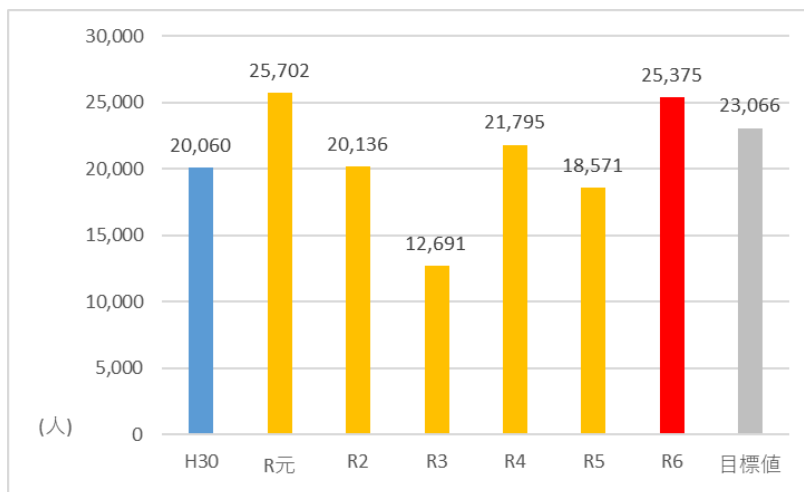
中心市街地において、店舗改修による付加価値の創出や遊休不動産を活用した起業・創業を一層進めていく。引き続き 3 期計画で実施した取り組みを継続して実施することに加え、新たに「都市再生推進法人が実施する施設整備事業」や「職人商店街創出支援事業」により、遊休不動産の活用効果をさらに高め、中心市街地内の賑わいを創出していく。

また、「水の都松江のまちの Re-project」については、これまでの「リノベーションスクール」で発掘した人材への支援を継続すると共に、令和 3 年度に策定した「松江市リノベーションまちづくりガイドライン」や SNS を活用し、リノベーションまちづくりの普及啓発を行うことで、チャレンジしやすい環境づくりと遊休不動産オーナーの理解促進を図り、引き続きの遊休不動産実事業化を進め、まちなかの再生と市域全体の活性化を目指す。

(2)「歩行者・自転車通行量(平日・休日)」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P59～P62 参照

●調査結果と分析



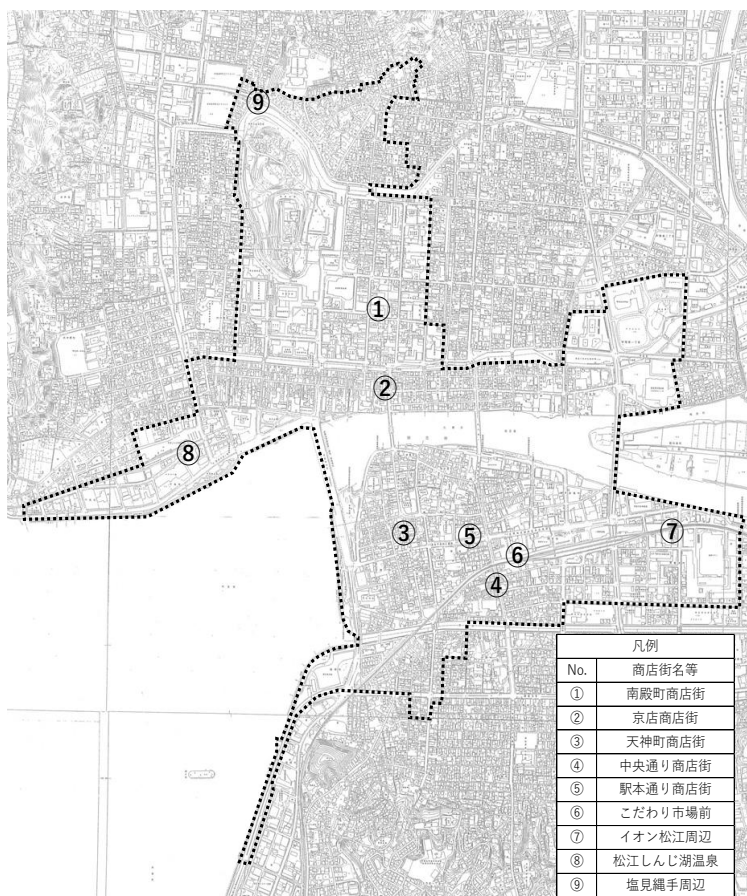
年	(人)
H30	20,060 (基準年値)
R 元	25,702
R2	20,136
R3	12,691
R4	21,795
R5	18,571
R6	25,375
目標値	23,066

※調査方法：歩行者・自転車通行者数を毎年 10～11 月の平日・休日に、市内 9 地点において 11 時～18 時で計測

※調査月：10～11 月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内の 9 地点（みしまや中央店（南殿町商店街）、末次本町広場（京店商店街）、中村茶舗前（天神町商店街）、島根県不動産会館前（中央通り商店街）、ボートピアビル前（駅本通り商店街）、駅駐輪場横高架下（こだわり市場前）、元丸三西側高架下（イオン松江周辺）、松江しんじ湖温泉南側（松江しんじ湖温泉）、小泉八雲記念館前（塩見縄手周辺））における歩行者及び自転車の通行量



〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

計画期間の前半は新型コロナウイルス感染症の影響により数値の減少があったが、水際対策の緩和等により徐々に人の往来がコロナ禍前に戻りつつある。こうした状況下において、計画に掲げる各事業を展開することで通行量の増加に寄与したものとする。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project（松江市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】1,200人（累計） 【最新値】0人 遊休不動産を題材とした事業化提案を求める取り組みから普及啓発へ主たる取り組みを移行したため事業化件数は上がっていない。
達成した（出来なかった）理由	リノベーションスクールなど遊休不動産を題材とした事業化提案を求める取り組みから普及啓発へ主たる取り組みを移行したため事業化件数は上がっていないが、チャレンジショップ支援事業等、他の遊休不動産の事業化の取り組みを後押ししているものとする。
計画終了後の状況及び事業効果	遊休不動産の所有者に対して、当事業の情報提供・空き家空き店舗の利活用意向調査を行い、新たな遊休不動産の掘り起こしを行っている。 また、リノベーションまちづくりガイドラインを活用した普及啓発に取り組むとともに、SNS や動画を活用した情報発信を行っている。
事業の今後について	地方創生推進交付金事業としては令和3年度で完了したが、令和4年度以降も引き続き「水の都松江のまちの Re-project」を実施している。遊休不動産の所有者に対して当事業の情報提供・空き家空き店舗の利活用意向調査を行うことで、新たな遊休不動産の掘り起こしを行い、事業化促進を図る。また、今後もガイドライン、プロモーション動画や SNS を活用した事業の普及啓発を継続して行う。これらの取り組みを継続することで、今後まちに新たなコンテンツが創出され、通行量の増加に繋がるものとする。

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年6月にオープン。民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値	【目標値】80人（R6）

及び達成状況	【最新値】0人（R6実績） 令和6年度は新たに中心市街地に起業した案件はなかった。
達成した（出来なかった）理由	目標値達成には至らなかったが、これまでにチャレンジカフェ、シェアオフィスの利用者が新たに起業した案件が6件あることから、事業の効果はあったものと捉え中心市街地への出店に結びつき通行量の増加に繋がるよう情報提供等を行なっていく必要がある。
計画終了後の状況及び事業効果	利用者が入れ替わりながらも利用者・契約件数は横ばいで推移している。
事業の今後について	今後も本事業を活用した人の中から中心市街地で起業する人が考えられるため、利用者にチャレンジショップ支援事業等の情報が届くよう定期的な情報交換を継続する

③. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】100人 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	デジタルサイネージや大型観光マップの設置により、松江城周辺の周遊を促す拠点施設として、観光客のまち歩き推進、周辺エリアの通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して整備を行った。令和6年度については、前年のコロナ禍明け直後に比べ、日本人のリベンジ旅行消費が落ち着いたことに加え、物価高の影響もあり、コロナ禍前の水準までには至っていない。今後は松江城天守国宝指定10周年やNHK連続テレビ小説「ばけげ」の放送開始を期に本施設を拠点とした観光客の周遊促進が見込まれる
事業の今後について	事業完了

④. チャレンジショップ支援事業（松江市）

事業実施期間	平成9年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－ 新規出店件数がコンスタントに増加しており、令和6年度は22件と、計画期間中の最高件数となった。近年、新規出店件数が高水準で推移をしていることから、今後の通行量の増加に寄与していくものと考えられる。

達成した（出来なかった）理由	令和 6 年度は目標値を大きく上回ることができた。 中心市街地への新規出店者が増えることで街の賑わいが生まれ、新規出店を検討する方に波及したのではないと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	計画期間中に事業実施に至った 81 件のうち、46 件が飲食業で最多となった。その他には小売業、サービス業、宿泊業などの出店があったことから、中心市街地の通行量増加に寄与していくと考える。
事業の今後について	計画期間においてはコロナ禍にかかる期間があったものの、新規出店件数が毎年コンスタントに伸び続け、目標値を大きく上回ることができた。 また、令和 6 年度に最多件数となった以降も事業者の相談件数は依然として多いことから、今後の事業化に向けて期待できる状況となっている。 活用はコンスタントに増加するものと思われる。出店希望者をきめ細やかに支援していくことでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。

⑤. まちあるき観光推進事業（松江観光協会）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	当日受付のまちあるきコースを開設し、観光客の利便性の向上することで観光振興及び地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定しない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	ゴーストツアーや武者によるガイドなど松江ならではの観光資源を活かしたまち歩きを促進することで通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	ゴーストツアーや武者ガイドの利用者数は令和 3 年度が 2,470 人、令和 4 年度が 2,473 人、令和 5 年度が 1,903 人、令和 6 年度〇〇人。今後は NHK 連続テレビ小説「ばけばけ」の放送を契機として利用者数増加を見込む。
事業の今後について	NHK 連続テレビ小説「ばけばけ」の放送を契機として、ゴーストツアーの内容充実を図るなど、観光客のまちあるき促進に向けて取り組んでいく。

⑥. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（（一社）中海・宍道湖・大山圏域観光局）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【済】平成 28 年度～令和 2 年度【済】 〔認定基本計画：平成 29 年度～〕
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定しない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況	近隣 5 市と連携し、観光プロモーションや受入環境整備を行ったこ

及び事業効果	とで中心市街地の通行量の増加に寄与した。
事業の今後について	事業完了

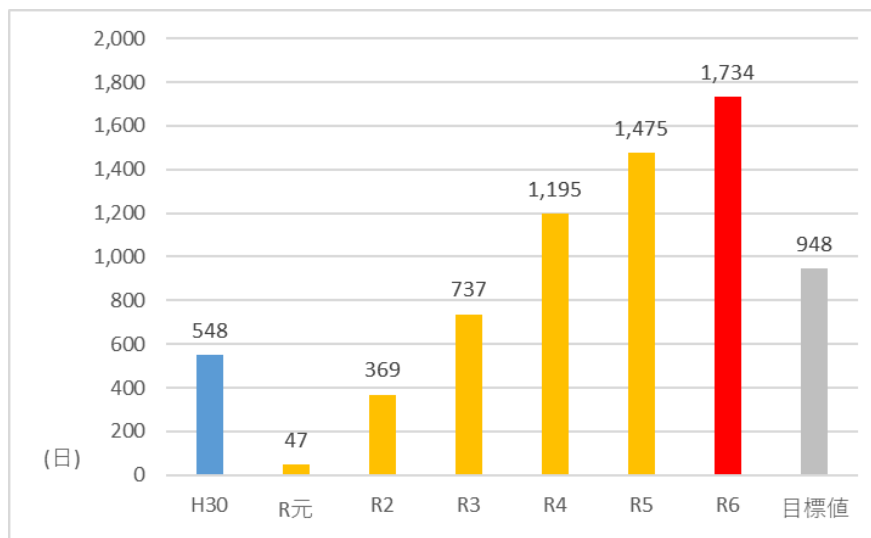
●今後の対策

前述した遊休不動産の活用や、観光客の誘客施策、中心市街地でのイベント開催などを通じて、まちなかに賑わいが生まれるようなまちあるきの導線をつくることで、歩行者・自転車通行量の増加を図り、中心市街地の活性化に繋げていく。

（３）「水辺の公共空間の活用日数」（目標の達成状況【A】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P63～P65 参照

●調査結果と分析



年	(日)
H30	548 (基準年値)
R元	47
R2	369
R3	737
R4	1,195
R5	1,475
R6	1,734
目標値	948 (累計)

※調査方法：市、県、国に対する利用申請又は届出等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：松江市、島根県、出雲河川事務所が管理する水辺の公共空間に対して利用に関する申請又は届出等があった日数の累計



（令和6年度 水辺の公共空間の利用日数）

〈分析内容〉

水辺の公共空間の活用日数の増加に向けた事業については、概ね予定どおり完了した。計画期間中は、「大橋川周辺まちづくり事業」での各種イベント開催や、「白潟地区都市再生推進整備計画」に基づいて実施した社会実験などの取り組みにより、水辺の利活用が進められたことから、計画期間内において順調に利用日数が増加した。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画や宍道湖・大橋川かわまちづくり計画に基づき、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、中心市街地の水辺の公共空間の利活用を進めることで、魅力的な水辺空間と中心市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】107 日（累計） 【最新値】207 日（191+16）（累計）
達成した（出来なかった）理由	ミズベリング松江協議会で「水辺で乾杯」や「ミズベリング縁日」といった水辺利活用普及推進イベントを毎年実施するとともに、市として令和 4・5 年度に白潟公園で水辺の賑わい創出社会実験を実施することで、民間による自発的な水辺の利活用が促進された。
計画終了後の状況及び事業効果	岸公園と白潟公園について、水辺の利活用が一定程度定着化し、当該利活用が継続することに対する地域の合意形成が整ったことから、令和 6 年 9 月 30 日に「都市・地域再生等利用区域」に指定（河川空間のオープン化）された。 オープン化によって、従来は認められなかった河川空間の商業利用が可能となり、さらなる民間の利活用が期待される。
事業の今後について	水辺の公共空間において、河川空間のオープン化といったソフト対策や、電気・給排水等の基盤整備といったハード対策を進めることで、民間事業者が利活用しやすい環境を整え、さらなる水辺の利活用を促進していく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和 2 年度～6 年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集集中支援事業（国土交通省）（令和 2 年度～6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】22 日（累計） 【最新値】20 日（累計）
達成した（出来なかった）理由	第 1 期白潟地区都市構造再編集集中支援事業において、令和 3 年度と令和 4 年度には白潟本町通りの整備に向けた「交通社会実験」を、令和 5 年度は源助公園付近において将来整備される船着場を想定した「乗船社会実験」を実施した。 令和 6 年度は、引き続き当該地区の整備を進めていくための「第 2 期白潟地区都市再生整備計画」の策定に注力したことにより、社会

	実験は実施しなかったため、目標値を達成しなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	「交通社会実験」では、将来の白潟本町通りの拡幅に向け、北進一方通行を想定し、模擬的に車道幅を狭め歩道空間を充実させることにより整備後の安全性などを検証した。また、歩行者交流空間を拡大し、店舗が連続した通りを演出することで「周辺の賑わいに与える効果」を検証し、市民が求める将来の白潟本町通りについてニーズの把握が出来た。 「乗船社会実験」では、「船着場」や付近に整備予定の「水辺の賑わい拠点」が周辺の賑わいに寄与することや、「水辺の賑わい拠点」に求める市民ニーズ、整備を進めていくための諸課題についての把握が出来た。
事業の今後について	令和7年度からは、第2期白潟地区都市再生整備計画に基づき、電線類の地中化工事・歩行空間整備工事を進めていくこととしており、今後、事業と関連する国、県と連携を図りながら、水辺の公共空間の活用につなげていく。

③. 水の都音楽祭（水の都音楽祭市民実行委員会）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	松江市が水の都であるということを音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	宍道湖畔で地域活性化を目指すため水の都音楽祭を開催し水辺の公共空間の活用に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	宍道湖畔で地域活性化を目指すため水の都音楽祭を開催し水辺の公共空間の活用に寄与した。
事業の今後について	事業完了

④. 市民レガッタ（松江市民レガッタ実行委員会）

事業実施期間	昭和59年度～令和元年度、令和6年度【実施中】 （令和2,3年度は大会中止、令和4,5年度は中心市街地外で開催）
事業概要	2日間で開催され、市民レベルの大会として全国でも例をみない多数の参加を誇る大会に発展している。水の都らしさを生かした賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の水辺空間で市内外から参加者が集まる市民レガッタを開催し水辺の公共空間の活用及び賑わい創出に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地の水辺空間で市内外から参加者が集まる市民レガッタを開催し水辺の公共空間の活用及び賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	今後の大会開催地は大橋川改修事業等の兼ね合いから中心市街地

て

区域外となる可能性が高いが、区域内で開催された際には賑わいに寄与するものである。

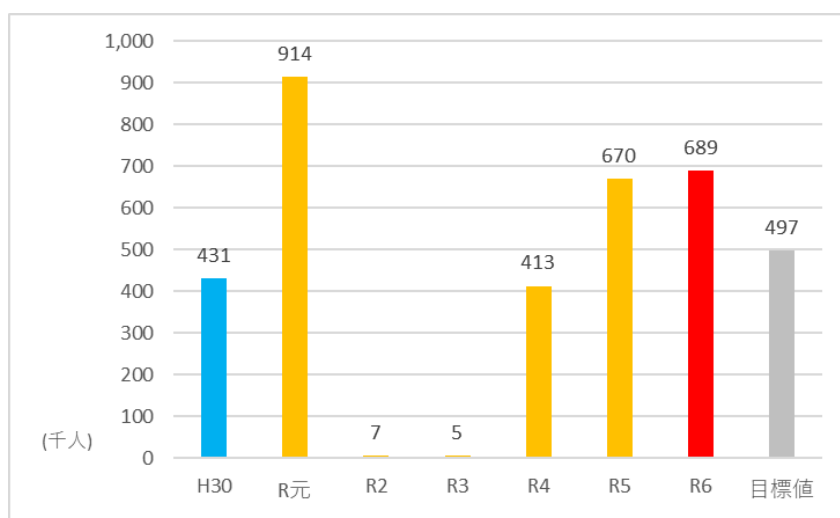
●今後の対策

令和 6 年 9 月に「河川空間のオープン化」がなされたことから、今後は民間事業者でのこれまで以上の利活用が図られることが期待できる。また、市役所の建て替えにより新たに整備した宍道湖畔に隣接する「市役所テラス」を、誰でも気軽に立ち寄り、身近で親しみを持つことのできる「開かれた場所」として利活用を図ることに加え、千鳥南公園に新たに整備する水辺ステージや多目的テラスを活用することで、さらに効果的に水辺空間の活用を促進していく。

（４）「水辺の公共空間の来訪者数」（目標の達成状況【A】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P66～P67 参照

●調査結果と分析



年	(千人)
H30	431 (基準年値)
R元	914
R2	7
R3	5
R4	413
R5	670
R6	689
目標値	497

※調査方法：松江市観光動態調査等

※調査月：毎年 4 月 1 日～3 月 31 日

※調査主体：松江市

※調査対象：水辺の公共空間で開催されたイベントの観客数等

〈分析内容〉

水辺の公共空間の来訪者数の増加に向けた事業については、概ね予定どおり完了した。

令和 2・3 年度は新型コロナウイルス感染症により大きく影響を受けたものの、行動制限が緩和されて以降はミズベリング松江協議会等が行う各種イベントにより、来訪者数が伸びた。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画や宍道湖・大橋川かわまちづくり計画に基づき、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、中心市街地の水辺の公共空間の利活用を進めることで、魅力的な水辺空間と中心市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値 及び達成状況	【目標値】 5,000 人 (R6) 【最新値】 7,162 人 (R6 実績)
達成した(出来なかった)理由	ミズベリング松江協議会で「水辺で乾杯」や「ミズベリング縁日」といった水辺活用普及推進イベントを毎年実施するとともに、市として令和4・5年度に白潟公園で水辺の賑わい創出社会実験を実施することで、民間による自発的な水辺の利活用が促進された。
計画終了後の状況 及び事業効果	岸公園と白潟公園について、水辺の利活用が一定程度定着化し、当該利活用が継続することに対する地域の合意形成が整ったことから、令和6年9月30日に「都市・地域再生等利用区域」に指定(河川空間のオープン化)された。 オープン化によって、従来は認められなかった河川空間の商業利用が可能となり、さらなる民間の利活用が期待される。
事業の今後について	水辺の公共空間において、河川空間のオープン化といったソフト対策や、電気・給排水等の基盤整備といったハード対策を進めることで、民間事業者が利活用しやすい環境を整え、さらなる水辺の利活用を促進していく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業(松江市)

事業実施期間	令和2年度～6年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集集中支援事業(国土交通省)(令和2年度～6年度)
事業目標値・最新値 及び達成状況	【目標値】 1,000 人(累計) 【最新値】 1,537 人(累計)
達成した(出来なかった)理由	第1期白潟地区都市構造再編集集中支援事業において、令和3年度と令和4年度には白潟本町通りの整備に向けた「交通社会実験」を、令和5年度は源助公園付近において将来整備される船着場を想定した「乗船社会実験」を実施した。
計画終了後の状況 及び事業効果	「交通社会実験」では、将来の白潟本町通りの拡幅に向け、北進一方通行を想定し、模擬的に車道幅を狭め歩道空間を充実させることにより整備後の安全性などを検証した。また、歩行者交流空間を拡大し、店舗が連続した通りを演出することで「周辺の賑わいに与える効果」を検証し、市民が求める将来の白潟本町通りについてニーズの把握が出来た。 「乗船社会実験」では、「船着場」や付近に整備予定の「水辺の賑わい拠点」が周辺の賑わいに寄与することや、「水辺の賑わい拠点」に求める市民ニーズ、整備を進めていくための諸課題についての把握が出来た。
事業の今後について	令和7年度からは、第2期白潟地区都市再生整備計画に基づき、電線類の地中化工事・歩行空間整備工事を進めていくこととしており、今後、事業と関連する国、県と連携を図りながら、水辺の公共空間の活用につなげていく。

③. 水の都音楽祭(松江市)

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	松江市が水の都であるということを音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民の

	シティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】60,000人 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	宍道湖畔で地域活性化を目指すため水の都音楽祭を開催し水辺の公共空間の来訪者に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	宍道湖畔で地域活性化を目指すため水の都音楽祭を開催し水辺の公共空間の来訪者に寄与した。
事業の今後について	事業完了

④. 市民レガッタ（松江市民レガッタ実行委員会）

事業実施期間	昭和59年度～令和元年度、令和6年度【実施中】 （令和2,3年度は大会中止、令和4,5年度は中心市街地外で開催）
事業概要	2日間で開催され、市民レベルの大会として全国でも例をみない多数の参加を誇る大会に発展している。水の都らしさを生かした賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の水辺空間で市内外から参加者が集まる市民レガッタを開催し水辺の公共空間の活用及び賑わい創出に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地の水辺空間で市内外から参加者が集まる市民レガッタを開催し水辺の公共空間の活用及び賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	今後の大会開催地は大橋川改修事業等の兼ね合いから中心市街地外となる可能性が高いが、区域内で開催された際には賑わいに寄与するものである。

⑤. 松江水郷祭（松江水郷祭推進会議）

事業実施期間	昭和4年度～【実施中】
事業概要	市民の祭りとして定着している松江水郷祭を日本有数の花火大会として県外へPRし観光誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】680,000人（R6年度）
達成した（出来なかった）理由	宍道湖湖上で花火の打ち上げを実施したことで水辺の公共空間の活用に関与した。
計画終了後の状況及び事業効果	宍道湖湖上で花火の打ち上げを実施したことで水辺の公共空間の活用に関与した。
事業の今後について	花火の演出面を強化し、「水の都 松江」にふさわしい花火大会を開催し、水辺の賑わいの創出を図る。

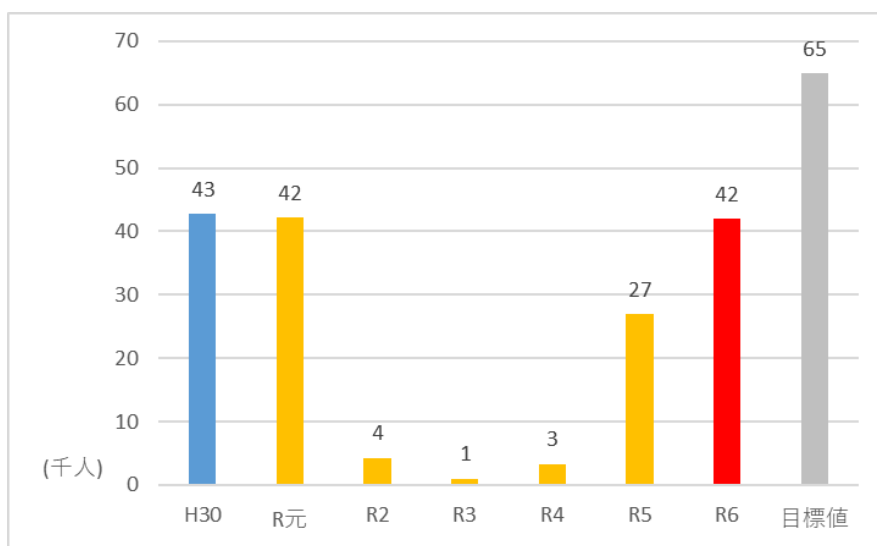
●今後の対策

前述した水辺空間の活用を進めていくとともに、日本有数の湖上花火イベントである水郷祭において打上発数の増加や「水の都」にふさわしい趣向を凝らした演出等により訴求力のある花火大会へブラッシュアップするなど、日常的な利活用に加えて、イベント開催を強化することで賑わいを創出していく。

（５）「中心市街地内の外国人宿泊客数」（目標の達成状況【C】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P68～P70 参照

●調査結果と分析



年	（千人）
H30	43 （基準年値）
R 元	42
R2	4
R3	1
R4	3
R5	27
R6	42
目標値	65

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間外国人宿泊客数

〈分析内容〉

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、新型コロナウイルス感染症や近年の物価高騰の影響により目標値到達には至らなかったと推察される。

「城下町・水の都魅力発信事業」により国宝松江城の魅力向上などを行うとともに、松江ならではの魅力をプロモーションすることで、コロナ禍以降の外国人宿泊客数の大幅な回復に寄与したものとする。近年、近隣空港を発着する国際便の就航が増加していることから、今後も外国人宿泊客数の増加が期待できる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化させるもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】8,000人 【最新値】－
達成した（出来なか	松江城ライトアップの常設化による夜の魅力創出やおせわさんぽ

った) 理由	ロジェクト等への事業補助を行い体験コンテンツの創出を図り、外国人宿泊客数の増加に寄与したがコロナ禍もあり目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	松江の観光資源の磨き上げをとおして、松江の魅力向上及び観光誘客の促進が図られた。
事業の今後について	事業完了

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 2,000 人 【最新値】 —
達成した（出来なかった）理由	デジタルサイネージや大型観光マップの設置により、松江城周辺の周遊を促す拠点施設として、観光客のまち歩き推進に寄与したが、コロナ禍もあり目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して整備を行った。 令和 6 年度については、前年のコロナ禍明け直後に比べ、日本人のリベンジ旅行消費が落ち着いたことに加え、物価高の影響もあり、コロナ禍前の水準までには至っていない。 今後は近隣空港への海外路線就航等、外国人観光客の増加が見込まれ、周遊拠点としての寄与が見込まれる。
事業の今後について	事業完了

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度【済】 [認定基本計画：平成 29 年度～]
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 6,000 人 【最新値】 —
達成した（出来なかった）理由	外国人誘客対策事業に加え、国内誘客対策事業として各空港の冬季利用促進を図るほか、三大都市圏への観光プロモーション実施により外国人宿泊客数の増加に寄与したが、コロナ禍により目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	観光プロモーションの実施や受入環境整備を通して外国人宿泊客数の増加に寄与した。
事業の今後について	事業完了

て	
④. 民間事業者による宿泊施設の整備（民間事業者）	
事業実施期間	令和２年度～令和４年度【済】
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】2,000人 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	中心街地において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が終了した。想定を上回る稼働率で宿泊客数に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	宿泊施設の大規模改修により、宿泊客数に寄与した。
事業の今後について	事業完了
⑤. 城下町・水の都魅力発信事業（松江市）	
事業実施期間	令和４年度～令和６年度【済】
事業概要	松江市が世界に誇る観光資源「国宝松江城」や「城下町文化」、「水の都」等の魅力を、広く発信していくための取り組み。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和４年度～令和６年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】武者によるお出迎え実績 43人（通算：138人）
達成した（出来なかった）理由	城下町松江ならではの素材を活用した誘客対策事業、JRとの連携強化事業、また観光客に向け甲冑姿の武者によるお出迎えを行う観光客おもてなし事業補助金の３つの事業の実施回数を増やすことで松江の魅力向上に寄与した
計画終了後の状況及び事業効果	松江ならではの観光資源を磨きあげ、継続的なプロモーション活動を実施することで国内外からの観光誘客に繋がっている。
事業の今後について	観光戦略プランを強力に推進するため、コンセプトである「Authentic Japan “MATSUE” ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～」にある「城下町」や「水の都」にスポットを当てた事業を展開し、松江市の魅力を最大限に活用した観光振興を図る。
⑥. 松江水燈路（松江市、松江ライトアップキャラバン実行委員会）	
事業実施期間	平成18年度～【実施中】
事業概要	毎年秋に松江城周辺で開催し、滞在時間の増加と夜の観光振興を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和３年度～4年度） デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和５年度～6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	松江城周辺を幻想的な灯りで照らし、周辺の観光施設への周遊を促すことで観光客の滞在時間増加と外国人宿泊客数回復に寄与した。
計画終了後の状況	「松江らしさ」をテーマにした灯りのオブジェやワークショップな

及び事業効果	ど大勢の市民が一体となって作り上げるイベントを継続して実施することで国内外の観光誘客に繋がっている。
事業の今後について	松江城周辺の周遊を促し、夜の観光振興を図ることで外国人宿泊客数の増加につなげていく。

⑦. 松江水郷祭（松江水郷祭推進会議）

事業実施期間	昭和 4 年度～【実施中】
事業概要	市民の祭りとして定着している松江水郷祭を日本有数の花火大会として県外へPRし観光誘客を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	花火大会の魅力向上、外国人観光客を取り扱っている旅行会社等へPRを行ったことで、外国人宿泊客数回復に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	花火大会の魅力向上、外国人観光客を取り扱っている旅行会社等へPRを行ったことで、外国人宿泊客数回復に寄与した。
事業の今後について	花火の演出面を強化し、「水の都 松江」にふさわしい花火大会を開催し、外国人観光客を取り扱う旅行会社へのPRを引き続き行うことで、外国人宿泊客数の増加を図る。

⑧. 国宝松江城マラソン（松江市、国宝松江城マラソン実行委員会）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】 （令和 2,3 年度は大会中止）
事業概要	市民マラソン大会（フルマラソン大会）の開催により、多くの市外、県外ランナーの参加が期待できることから交流人口の増加と地域活性化を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	大会が開催される冬期（12 月）に市内外から多くのランナーが参加したことで選手、観客により賑わい、経済効果が創出された。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地を発着し城下を走るコースになっており、市外県外の参加者に市内をPRできるイベントであることから、今後の交流人口、宿泊客数の増加に寄与すると考える。
事業の今後について	コロナ禍の令和 2,3 年度は大会が中止になったものの、令和 4 年度以降は参加者数が徐々にコロナ禍前の水準まで回復しつつある状況から、今後も事業を通して交流人口の増加と地域活性化を図る。

⑨. 外国人滞在型観光促進事業補助金（一般社団法人松江観光協会）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	市内宿泊施設に宿泊する団体ツアーに対して助成することで団体ツアーの誘致を図り、宿泊客数の増加及び観光消費額の拡大に結びつけるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	台湾、香港および韓国を中心に、旅行会社へのセールスや旅行博・イベント出展で本補助事業の活用を促進することで、団体ツアーの増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	市域全体の外国人延べ宿泊者数が令和５年度の 43,586 人から令和 6 年度は 63,865 人となり、目標の 70,000 人には届かなかったもののコロナ禍前の 8 割程度まで回復してきている。今後は、近隣空港の国際線定期便の増便、チャーター便の就航などもあることから、当該補助金を活用することで市内に宿泊する団体ツアーは増加すると見込まれる。
事業の今後について	今後は、引き続き本助成事業を旅行会社に周知し、ツアー誘致を推進するとともに、助成条件に市内観光施設・飲食店を利用することも加え、観光消費額の増加も目指して取り組んでいく。

⑩. 外国人観光客モニター事業（一般社団法人松江観光協会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	外国人観光客を対象に、広島－松江間高速バス運賃を割引することで、広島県に訪れる多数の外国人観光客の誘致を図り、宿泊客数の増加及び観光消費額の拡大に結びつけるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	ネット購入者は割引利用の該当にならないことや、利用日の 7 日前以降でしか購入ができないことから、大きな利用者増加に繋がりにくい。
計画終了後の状況及び事業効果	目標達成に至らず、当該事業の利用者数は令和 5 年度と比較し、▲193 人の 1,431 人となった。令和 6 年度は利用者負担額を令和 5 年度の 500 円から 1,000 円へ引き上げたがその影響は大きくなく、実際は冬季の動きが鈍ったことによる減と推測される。
事業の今後について	今後も、当該事業の PR を継続し、外国人が多く訪れる広島からのインバウンド誘客促進に取り組んでいく。

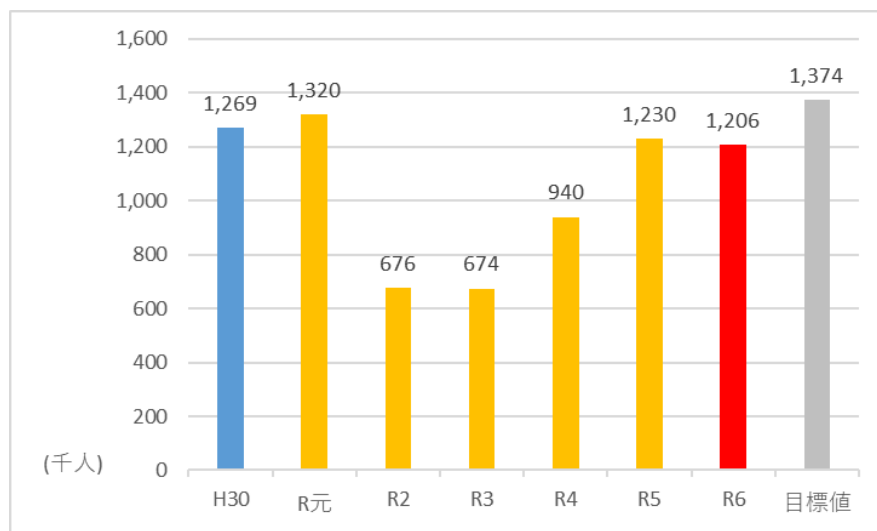
●今後の対策

観光客、宿泊客数がコロナ禍前の水準まで回復していないため、今後は、FIT 向けの対策強化や各国の富裕層をターゲットにインバウンドの推進を図るとともに、松江城や宍道湖の夕日などの松江市がもつ自然・歴史・文化資源を磨き上げることで観光振興の拡大につなげていく。また、前述した近隣空港における新たな国際便の就航や、大阪万博などを機会と捉え、松江の魅力を発信し、インバウンドを推進していく。

(6)「中心市街地内の宿泊客数」(目標の達成状況【C】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P71～P73 参照

●調査結果と分析



年	(千人)
H30	1,269 (基準年値)
R 元	1,320
R2	676
R3	674
R4	940
R5	1,230
R6	1,206
目標値	1,374

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間宿泊客数

〈分析内容〉

「中心市街地内の宿泊客数」については、コロナ禍以降実績値が増加しているものの近年の物価高騰などの影響から目標値到達には至らなかったと推察される。

3期計画中には「民間事業者による宿泊施設整備」により2棟の大型宿泊施設が整備されるとともに、「松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業」により堀川遊覧船大手前広場乗船場を整備した。また、松江水郷祭や松江水燈路などの夜のイベントにより中心市街地の魅力向上を図ることで、コロナ禍以降の宿泊客の増加に繋がったものとする。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化させるもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】8,000人 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	松江城ライトアップの常設化による夜の魅力創出やおせわさんプロジェクト等への事業補助を行い体験コンテンツの創出を図り、宿泊客数の増加に寄与したがコロナ禍もあり目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	松江の観光資源の磨き上げをとおして、松江の魅力向上及び観光誘客の促進が図られた。
事業の今後について	事業完了

て	
②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）	
事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】2,000人 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	デジタルサイネージや大型観光マップの設置により、松江城周辺の周遊を促す拠点施設として、観光客のまち歩き推進に寄与したが、コロナ禍もあり目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して整備を行った。令和6年度については、前年のコロナ禍明け直後に比べ、日本人のリベンジ旅行消費が落ち着いたことに加え、物価高の影響もあり、コロナ禍前の水準までには至っていない。 今後は松江城天守国宝指定10周年、NHK連続テレビ小説「ばけけ」の放送開始を期に観光客の増加が見込まれており、周遊拠点としての寄与が見込まれる。
事業の今後について	事業完了
③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）	
事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】 〔認定基本計画：平成29年度～〕
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】26,000人 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	外国人誘客対策事業に加え、国内誘客対策事業として各空港の冬季利用促進を図るほか、三大都市圏への観光プロモーション実施により外国人宿泊客数の増加に寄与したが、コロナ禍もあり目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	観光プロモーションの実施や受入環境整備を通して宿泊客数の増加に寄与した。
事業の今後について	事業完了
④. 民間事業者による宿泊施設の整備（民間事業者）	
事業実施期間	令和2年度～令和4年度【済】
事業概要	民間宿泊施設の開業

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 87,000 人 【最新値】 123,779 人
達成した（出来なかった）理由	中心街地において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が終了した。想定を上回る稼働率で宿泊客数に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	宿泊施設の大規模改修により、宿泊客数に寄与した。
事業の今後について	事業完了

⑤. 城下町・水の都魅力発信事業（松江市）

事業実施期間	令和 4 年度～令和 6 年度【済】
事業概要	松江市が世界に誇る観光資源「国宝松江城」や「城下町文化」、「水の都」等の魅力を、広く発信していくための取り組み。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和 4 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 設定していない 【最新値】 武者によるお出迎え実績 43 人（通算：138 人）
達成した（出来なかった）理由	城下町松江ならではの素材を活用した誘客対策事業、JR との連携強化事業、また観光客に向け甲冑姿の武者によるお出迎えを行う観光客おもてなし事業補助金の 3 つの事業の実施回数を増やすことで松江の魅力向上に寄与したが、コロナ禍前の水準までには至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	松江ならではの観光資源を磨きあげ、継続的なプロモーション活動を実施することで国内外からの観光誘客に繋がっている。
事業の今後について	観光戦略プランを強力に推進するため、コンセプトである「Authentic Japan “MATSUE” ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～」にある「城下町」や「水の都」にスポットを当てた事業を展開し、松江市の魅力を最大限に活用した観光振興を図る。

⑥. 松江水燈路（松江市、松江ライトアップキャラバン実行委員会）

事業実施期間	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	毎年秋に松江城周辺で開催し、滞在時間の増加と夜の観光振興を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2 年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年度～4 年度） デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和 5 年度～6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 設定していない 【最新値】 －
達成した（出来なかった）理由	松江城周辺のライトアップ、堀川遊覧船夜間運航、周辺施設の営業時間延長などにより観光客の滞在時間増加と宿泊客数回復に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	「松江らしさ」をテーマにした灯りのオブジェやワークショップなど大勢の市民が一体となって作り上げるイベントを継続して実施することで宿泊客数増加に繋がっている。
事業の今後について	松江城周辺の周遊を促し、夜の観光振興を図ることで宿泊客数の増加につなげていく。

⑦. 松江水郷祭（松江水郷祭推進会議）

事業実施期間	昭和 4 年度～【実施中】
事業概要	市民の祭りとして定着している松江水郷祭を日本有数の花火大会として県外へPRし観光誘客を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	ナイトコンテンツである花火大会の魅力向上を行ったことで宿泊客数増加に寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	ナイトコンテンツである花火大会の魅力向上を行ったことで宿泊客数増加に寄与している。
事業の今後について	花火の演出面を強化し、「水の都 松江」にふさわしい花火大会を開催し、宿泊客数の増加を図る。

⑧. 国宝松江城マラソン（松江市、国宝松江城マラソン実行委員会）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】 （令和 2,3 年度は大会中止）
事業概要	市民マラソン大会（フルマラソン大会）の開催により、多くの市外、県外ランナーの参加が期待できることから交流人口の増加と地域活性化を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	大会が開催される冬期（12 月）に市内外から多くのランナーが参加したことで選手、観客により賑わいが創出された。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地を発着し城下を走るコースになっており、市外県外の参加者に市内をPRできるイベントであることから、今後の交流人口、宿泊客数の増加に寄与すると考える。
事業の今後について	コロナ禍の令和 2,3 年度は大会が中止になったものの、令和 4 年度以降は参加者数が徐々にコロナ禍前の水準まで回復しつつある状況から、今後も事業を通して交流人口の増加と地域活性化を図る。

⑨. 外国人滞在型観光促進事業補助金（一般社団法人松江観光協会）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	市内宿泊施設に宿泊する団体ツアーに対して助成することで団体ツアーの誘致を図り、宿泊客数の増加及び観光消費額の拡大に結びつけるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	台湾、香港および韓国を中心に、旅行会社へのセールスや旅行博・イベント出展で本補助事業の活用を促進することで、団体ツアーの増加に寄与した。

計画終了後の状況及び事業効果	市域全体の外国人延べ宿泊者数が令和5年度の43,586人から令和6年度は63,865人となり、目標の70,000人には届かなかったもののコロナ禍前の8割程度まで回復してきている。今後は、近隣空港の国際線定期便の増便、チャーター便の就航などもあることから、当該補助金を活用することで市内に宿泊する団体ツアーは増加すると見込まれる。
事業の今後について	今後は、引き続き本助成事業を旅行会社に周知し、ツアー誘致を推進するとともに、助成条件に市内観光施設・飲食店を利用することも加え、観光消費額の増加も目指して取り組んでいく。

⑩. 外国人観光客モニター事業（一般社団法人松江観光協会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	外国人観光客を対象に、広島ー松江間高速バス運賃を割引することで、広島県に訪れる多数の外国人観光客の誘致を図り、宿泊客数の増加及び観光消費額の拡大に結びつけるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成した（出来なかった）理由	ネット購入者は割引利用の該当にならないことや、利用日の7日前以降でしか購入ができないことから、大きな利用者増加に繋がりにくい。
計画終了後の状況及び事業効果	目標達成に至らず、当該事業の利用者数は令和5年度と比較し、▲193人の1,431人となった。令和6年度は利用者負担額を令和5年度の500円から1,000円へ引き上げたがその影響は小さくなく、実際は冬季の動きが鈍ったことによる減と推測される。
事業の今後について	今後も、当該事業のPRを継続し、外国人が多く訪れる広島からのインバウンド誘客促進に取り組んでいく。

●今後の対策

観光客、宿泊客数がコロナ禍前の水準まで回復していないため、魅力ある観光素材の磨き上げとして、城下町松江の街並み、茶の湯や和菓子、伝統行事など自然・歴史・文化資源を活かすことに加え、光・灯りの演出や夜のイベントの充実などにより、ナイトタイムエコノミーの振興を図り、松江の魅力向上に取り組んでいく。

また、開催地における経済波及効果が大きく、ビジネス機会やイノベーションの創出も期待できるMICEの誘致を進めるとともに、官民組織でスポーツコミッションを設立し、スポーツによる地域活性化にも取り組む。加えて、閑散期となる冬季や梅雨の誘客対策として新たなコンテンツ開発に取り組むほか、2025年秋に放映されるNHK連続テレビ小説「ばけばけ」の放送を契機に、松江の魅力や松江に根付く茶の湯文化をはじめとする様々な伝統文化・芸術を国内外へ発信していく。